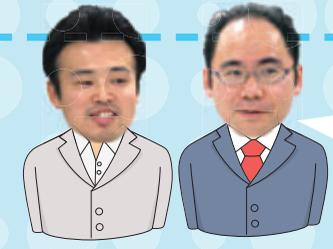


# PT パーソントリップ 調査

## 知っていますか?

皆さんは、「パーソントリップ調査」を知っていますか？  
 パーソントリップは、人の動きだけでなくさまざまなことがわかる、まちづくりに欠かせない調査のひとつです。  
 今回の結果で見えてきた、さいたま市の特徴とは…？

私たちが  
分析しています



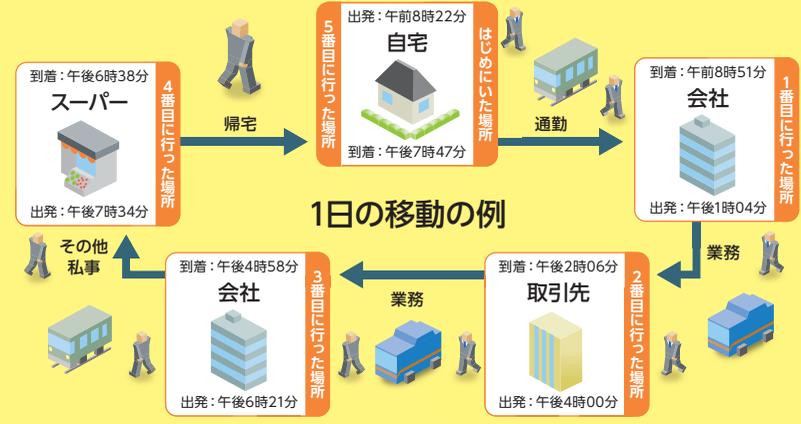
一般財団法人 計量計画研究所  
 交通まちづくり研究室  
 研究員 福本大輔さん  
 主任研究員 石神孝裕さん

計量計画研究所は、交通や都市に関する調査研究を行っている組織です。全国各地のパーソントリップ調査のお手伝いをしています。

### パーソントリップ PT調査とは

パーソントリップ調査とは、「人の動き」に着目して都市の活動を明らかにするための調査です。1日の移動をアンケートで尋ね、「どのような人が」「どのような目的・交通手段で」「どこからどこへ」移動したかなど、ある人の平日1日のすべての動きを調べています。

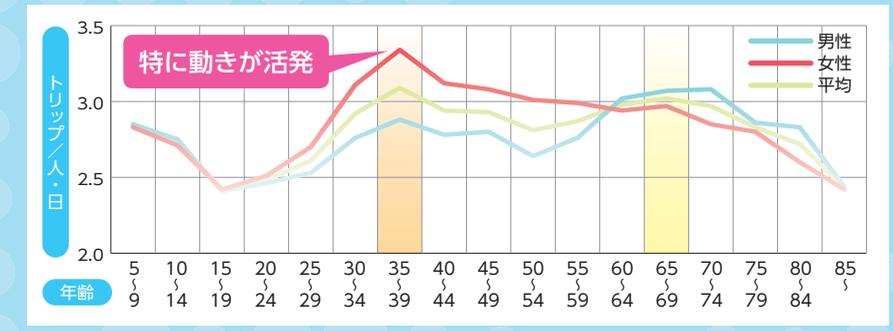
東京PT調査は、東京都市圏交通計画協議会が昭和43年以降10年ごとに実施し、平成20年には第5回目を行いました。調査の範囲は、東京都市圏の1都4県。対象者は、満5歳以上の都市圏居住者約1600万世帯のうち無作為に選ばれた約140万世帯の方から移動情報を得ている、大規模なものです。  
 このデータをもとに、都市圏の望ましい交通体系のあり方を検討しています。



### さいたま市を人の移動から見ると...

#### 女性の移動が活発!

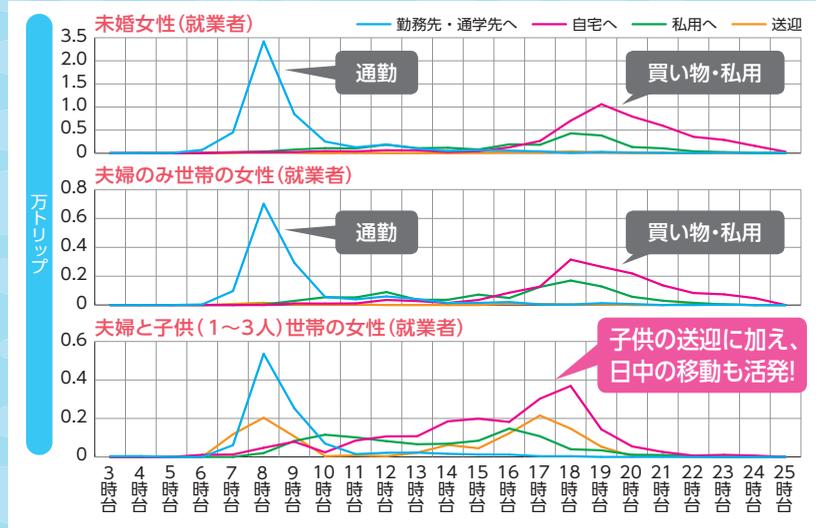
年齢階層別の1人1日あたり平均トリップ数(外出した人のみ対象)



年齢別の移動では、35〜39歳と65歳〜69歳の移動回数が多いことがわかります。そして、男女別に分けて見ると、35〜39歳の女性は、1人1日あたりの移動回数が多くなっています。ここは主に、子育て中の女性が該当します。

### 子どもがいる女性は特に活動が活発!

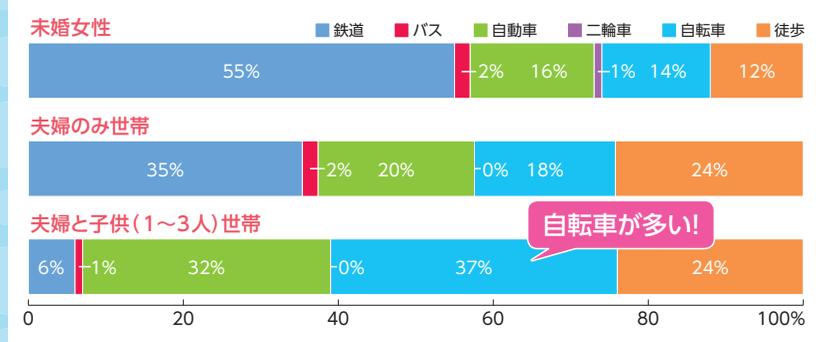
さいたま市に居住している就業女性(20~39歳)を対象とした目的地への到着時刻別、移動の目的別の集中トリップ数



働く女性の移動を未婚女性、夫婦のみ世帯の女性、夫婦と子供世帯の女性に分けて見ると、子どもがいる女性は、いつもの日常的な移動に加えて保育園や幼稚園への送り迎えを行っているため、移動回数が多くなる傾向があります。帰宅時間は、子どもがいない女性がい買物などの私用をして帰宅するのに比べ、早くなっています。人口が減少傾向に移りつつある中、女性が子育てしやすいまちづくりが必要です。

### 子どもがいる世帯は、自転車利用が多い!

さいたま市に居住している女性(20~39歳)を対象とした代表交通手段分担率



未婚女性と夫婦のみの女性は、通勤や通学で鉄道の利用が多く、子どもがいる女性は、自転車と自動車の利用が多くなっています。子どもがいる女性の場合、東京都市圏全域では自動車利用の方が多く、さいたま市は、子育てで自転車を使っている人がかなり多いことがわかります。

都市交通課  
 ☎829-1053  
 東京都圏交通計画協議会  
<http://www.tokyo-pt.jp/>



人の移動から浮かび上がる、さいたま市。若い女性、特に子供がいる女性の活動が活発で、自転車利用が多いことは、驚きでもあり、納得でもあります。さいたま市では、この調査を活用して、道路や施設の整備など、実情に対応した都市交通の戦略を策定しています。また、パーソントリップ調査は、交通計画だけでなく、インフルエンザの感染拡大の予測、帰宅困難者や津波避難の対策などにも応用されています。